



イラスト：渡邊瑞穂

2023年
4月号
特集

黄金の

3日間の

システム作り

1 黄金の3日間とは

2 黄金の3日間で安定させる最初の3つ

3 私の黄金の3日間「マトリクス」を公開

4 黄金の3日間で起きる「トラブル」をチャンスに変える



1 改めて「黄金の三日間」を定義する

「黄金の三日間」は向山洋一氏の造語です。『教室ツーウェイ』誌（明治図書）で使われたのが最初だと記憶しています。今では一般名詞化しています。全国各地の指導主事も校長も普通に使っています。

明日からの「黄金の三日間」を大切にしましょう。

とても良いことだと思います。ただ、言葉が広がる一方で、一部ではやや混乱した意見も流布しているようです。

「最初の三日間を楽しく過ごすってことでしょ？」

「いや、最初に、締め付けて、規律をつくるのが大切なのです」

「でも、大事なものは三日間だけではありません」

「そもそも、最初に先生が引っぱりすぎるのはよくないのでは？」

いずれも、当初向山氏が意図したこと

と全く違います。

今、改めて「黄金の三日間」の定義を確認し、子供たちが伸びやかに活動していくためのシステムとはどのようなものなのか、考えてみたいものです。

2 黄金の三日間で安定させる3つのこと

三日間ではなく、ややゆっくりと自然な形でクラスのシステムを作っていくことも、あるにはあります。でも、それは相当腕のある教師の場合です。初任の先生がいたずらに真似をすればクラスはあつという間に瓦解していきます。

黄金の三日間で「安定」させることは、まず三つあります。

第一に、子供との「個別関係」です。

出会う前に名前を覚えること。子供たちの名前を呼んで褒めること。一筆箋などを書いて保護者にも伝えること。

そういったことがまずは大切です。

第二に、クラスの「生活システム」です。

その中心は「係と当番」の設計です。

係と当番との違いを明確にし、学級の組織をひとまず安定させることが最優先です。

第三に一年間の「学習方法」です。

「出会いの授業」を準備すること。ノートを書き方を教えること。学習のルールを自然な形で伝えていくこと。それらを、楽しい授業の中で、熱中する形で教えていかなければなりません。

3 三日間の具体的なプラン

そうは言っても、若い先生方が細部までイメージすることは簡単ではありません。そこで、今回は長谷川博之氏と小嶋悠紀氏の黄金の三日間のシナリオを、「生活システム」と「学習システム」に分けて具体的にお示しいただきました。

さらに、出会いの時にありがちな「トラブル」も取り上げ、その対応例を具体的に考えました。

これらをもとに、各地のサークル等でぜひ話し合っていただけだと思います。

（本誌編集長 谷和樹）

あらためて「黄金の3日間」を定義する

「黄金の3日間」の間違った解釈に惑わされず、1年間を安定的に進めるシステムを作ることと尽力をする。そのためには「黄金の3日間」の準備が大切である。

関西外国語大学教授 まつ ざき 松崎 つとむ 力

1 「黄金の3日間」への誤解

私が教職に就いた約四十年前には、「黄金の3日間」という言葉はなかった。しかし、現在では、「黄金の3日間」は全国の至る所で口にされる言葉である。事実、私が世話になった管理職の多くも、若手に対して「子供たちと出会う『黄金の3日間』を大切にしてください」と指導をしていた。

この言葉は、向山洋一氏が『教室ツウエイ』誌（明治図書）にて、発表した造語である。『教室ツウエイ』の四月号の特集は、「黄金の3日間」を繰り返し取り上げていた。それほど重要なテーマなのである。

しかし、「黄金の3日間」という言葉だけが独り歩きしている感がある。正しく理解せず、手前勝手に定義を作り、混乱している現場もある。例えば「黄金の3日間って、最初の3日間を楽しく過ごすってことでしょう」や「黄金の3日間

の間に、子供たちを締め付けて、統率すればいいんだよ」という間違った解釈をして、それを流布している。

中には、「黄金の3日間」というように、最初の3日間だけを大切にするとするのは間違っている。一年間、どの時期だって大切なんだ」と自説を説いたり、「最初に先生が引っぱりすぎてしまうやり方は、間違っている」と否定したりする。

このような説に引っぱり張られて、始業以降の対応が後手に回り、結局学級が荒れてしまうという状況も見られる。

2 「黄金の3日間」の定義

では、「黄金の3日間」とは、どういうものだろうか。定義をしたいところだが、まずはこの3日間に何をするかを考える。それを確認したうえで、定義してみる。

春休み明け、子供たちが登校し、始業式等を含む各種儀式が行われる。その後、教室にて、子供たちと出会う。この出会

いの瞬間から、黄金の三日間は始まる。

この時期、子供たちはやる気に満ちている。進級した喜びをもって、張り切っている子供たち。前年度、荒れてしまった学級の子供たちでも、「今年こそは」と思っている。だから、新しく担任になった教師に対して興味があり、神妙な面持ちで先生の話聞いています。

その絶好のチャンスを逃さず、このような学級にしていきたいという思いや学校で学ぶ意義などを語って聞かせる。明るく、元気に、はつらつと話せば、子供たちの意欲は高まってくる。

その後、学級のルールを決めたり、当番活動や係活動などのシステムを作ったりする。

授業が始まれば、持ち物を確認したり、ノートの使い方を指導したりする。その中に、学習ゲームなどの楽しい活動を入れて、授業に対する期待感を高めていく。他にも必要なのは多々あるが、以上に述べたことは、安定した学級づくり

に欠かせない内容である。こう考えると、「黄金の三日間」の定義は、「一年間を安定的に進めていくシステムなどを作り上げる時期」ということがいえる。

3 本当に大切なのは準備期間

前述したように「『黄金の三日間』を大切にしてください」という言葉をよく耳にする。そう考えると、この三日間だけが大切かと勘違いする人もいるだろう。しかし、その三日間に何をするか決まっていなければ、手の施しようがない。大きく三つに分けて準備をする。

- 1 出会う前までにすること
- 2 出会うの時にすること
- 3 三日目までにすること

私は、これらを大学生に考えさせた。大学生は経験がないので、大変苦労していた。それでもグループワークを通して、次のような方法を入手していた。

1 出会う前までにすること（抜粋）

① 子供の名前を覚える。

② 前担任や記録から、情報を得る。

③ 出会った時に語る内容を決める。

2 出会うの時にすること（同）

① 先生の自己紹介をする。

② こういう学級にしたいという先生の思いを語る。

③ 子供に自己紹介させる。

3 三日目までにすること（同）

① いろいろな役割を決める。

② コミュニケーションを深めるために、子供が交流するゲームなどを行う。

③ 学級のルールや目標を決める。

大切なことはこれらをノートにまとめ、整理することである。タイムスケジュールを決め、空白の時間を作らず、明るく朗らかに進めていく。

「黄金の三日間」を知らずに教壇に立つことは、恐ろしいことである。大学レベルで、「黄金の三日間」の必要性和具体的な手立てを指導しておきたい。